

【保土ヶ谷公会堂 主催】

映画『フロントライン』上映会 関連図書ブックリスト

このブックリストでは次の4章に分け、映画で扱われた時期前後の状況を知ることができる本をご紹介します。

- 1 ダイヤモンド・プリンセス号での集団感染について
- 2 医療従事者・その他の専門家の現場について
- 3 政策決定の現場について
- 4 その他の事情、報道などについて



①予約数が少なく、②専門知識がなくても読める本を中心に掲載しています。

本上映会に参加した方々が、さらにご自身の関心や問題意識に沿って理解を深める際の一助になれば幸いです。

【凡例】

『○○○○』	出版社名	出版年	
△△△△/著	著者名	□□□□社	20×× 書誌番号：●●●●●●●●●●
この本は――。		市立図書館のシステム上の書誌(本の情報)の番号。 「蔵書検索ページ」で調べる時に使えます。	
内容の説明			

※このリストでは、「ダイヤモンド・プリンセス号」は「DP号」、「新型コロナウイルス感染症」は「新型コロナ」と、それぞれ略称します。(ただし、書名や固有名詞などを除く)

〈横浜市保土ヶ谷図書館〉

Ⅰ ダイヤモンド・プリンセス号での集団感染について

『世界を敵に回しても、命のために闘う ダイヤモンド・プリンセス号の真実』			
瀧野隆浩／著	毎日新聞出版	2021	書誌番号：1113864957
毎日新聞社会部専門編集委員である著者が、 ^{ディーマット} DMATとして神奈川県庁で患者搬送を指揮した阿南英明 ^{あなんひであき} 氏、同じく ^{ディーマット} DMATとして船内活動を統率した近藤久禎氏 ^{こんどうひさよし} 、厚労省の官僚で患者の搬送先の手配を担った堀岡伸彦氏 ^{ほりおかのぶひこ} 、医療提供体制「神奈川モデル」の構築に携わった畑中洋亮氏 ^{はたなかようすけ} ら4人を中心に取材を重ね、DP号の集団感染発生から収束まで、現場やその周辺で何があったのかを詳細に記述した本です。			

『最後の砦となれ 新型コロナから災害医療へ』			
大岩ゆり／著	中日新聞社	2022	書誌番号：1113944551
科学ジャーナリストである著者が、患者を特に積極的に受け入れたことで知られる藤田医科大学病院を「なぜそれが可能だったのか」という視点で取材し、まとめた本です。2020年2月からの約2年間を対象に、関係者の証言や対策本部の記録などから分かったことを、全6章で記述しています。DP号については、第1章で詳しく触れています。(p.13-58)			

『命のクルーズ』			
高梨ゆき子／著	講談社	2022	書誌番号：1113957972
読売新聞編集委員である著者が、DP号の乗客や医療従事者など多くの関係者から話を聞き、2020年1月から2021年10月までの時系列に沿い、様々な人物の視点から当時の状況を全9章でまとめたノンフィクションです。特に1月30日から3月1日までの様子は、日ごとに記述されています。なお、巻末にはDP号の旅程（乗船時に配付されたもの）と船内図が掲載されています。			

『パンデミック客船「ダイヤモンド・プリンセス号」からの生還』			
小柳剛／著	KADOKAWA	2020	書誌番号：1113786465
夫婦でDP号に乗船した著者が、2020年1月20日の出航、2月5日から始まった隔離生活を経て、2月20日に下船するまでの約1か月の記録をまとめた本です。毎日の出来事を率直な心情とともに詳細に記述しているほか、船内の様子を撮影したモノクロ写真、知人や記者と交わしたメールの記録、船内で配られた文書などが併せて掲載されています。			

『ダイヤモンド・プリンセス号に隔離された30日間の記録 新型コロナ感染』			
矢口栞子／著	合同出版	2020	書誌番号：1113821181
夫婦でDP号に乗船した著者が、2020年1月20日の出航の後、2月5日から19日までの隔離生活を経て下船し、2月20日から3月4日まで2週間の経過観察期間を過ごした際の体験をまとめた本です。毎日の出来事を率直な心情とともに詳細に記述しているほか、船内や大黒ふ頭の様子を撮影したカラー写真などが掲載されています。			

2 医療従事者・その他の専門家の現場について

『それでも闘いは続く コロナ医療最前線の700日』			
国立国際医療研究センター／著	集英社インターナショナル	2021	書誌番号：1113925040
<p>新型コロナの流行初期から患者の診療にあたった国立国際医療研究センター（現・国立健康危機管理研究機構）が、新型インフルエンザ流行時（2009年）の対応の全体像が分からなくなっているのではという問題意識から、同センターの経験を後世に残すべくまとめた本です。約10人の職員へのインタビューをもとに、流行初期から約2年間、新型コロナにどう対応したかが詳細に記述されています。</p> <p>なお、巻末には職員の略歴（p.269-273）のほか、「新型コロナウイルス 関連年表」（全12ページ）が掲載されています。</p>			

『走り続けた看護師たち 新型コロナウイルス感染症パンデミックで起きたこと』			
あさひゆり／著	医学書院	2025	書誌番号：1124069862
<p>看護師であり漫画家でもある著者が複数の看護師に取材を重ね、パンデミック当時の医療現場の実状を創作も交えた漫画作品にまとめた本です。5つの現場（コロナ専門病棟、産婦人科病棟、訪問看護など）のエピソードのほか、著者自身の4つの体験（自分も発症して自宅療養したことなど）を、漫画で分かりやすく読むことができます。</p>			

『新型コロナウイルス ナースたちの現場レポート』			
日本看護協会出版会編集部／編	日本看護協会出版会	2021	書誌番号：1113864882
<p>2020年の1月から12月までの間、医療やケアの現場で働く162人に及ぶ執筆者たちが、それぞれどのような日々を過ごし、どう考え、何を感じたかをまとめた本です。各執筆者の記録は全部で5つの大項目（「現場レポート」、「日々の暮らし」、「私の『コロナ日記』」など）に分けて掲載され、やや専門的な内容のものから、ひとりの人間としての率直な感情や生活の様子をつづったものまで、744ページにわたり詳細に記述されています。</p>			

『かながわコロナ戦記 未知のウイルス SARS-COV-2 と戦った41か月の軌跡』			
竹村克二／著	幻冬舎メディアコンサルティング	2025	書誌番号：1124070933
<p>神奈川県医師会の副会長だった著者が、2020年1月から2023年5月までの神奈川県下の医療現場に焦点を当て、当時どのような対応や出来事があったかをまとめた本です。</p>			

『成田空港検疫で何が起きていたのか 検証新型コロナウイルスの水際対策』			
田中一成／著	扶桑社	2022	書誌番号：1113939493
<p>2018年後半から2021年9月まで成田空港検疫所長を務めた著者が、同検疫所が新型コロナにどう対応したかの記録と、そもそも検疫とは何かという基礎知識、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた準備の実状などをまとめた本です。</p>			

3 政策決定の現場について

『1100日間の葛藤 新型コロナ・パンデミック、専門家たちの記録』			
尾身茂／著	日経BP	2023	書誌番号：1122084640
<p>2020年2月から新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の副座長、同年3月から基本的対処方針等諮問委員会の会長を務めた著者が、その後の約3年間、100本以上出した新型コロナ対策の提言にどのような舞台裏があったのかをまとめた本です。専門家同士の議論、その時々々の首相、大臣、行政官などとの調整の様子や当時の著者の心境などが、全3部（のべ16章）で詳細に記述されています。なお、巻末には主な提言や意見の概要を「公表日」、「内容」、「発案者・提出者」などの項目で整理した一覧表や、助言組織や勉強会に参加した専門家の一覧表などが掲載されています。（p.339-406）</p>			

『分水嶺 ドキュメントコロナ対策専門家会議』			
河合香織／著	岩波書店	2021	書誌番号：1113868150
<p>ノンフィクション作家として定評のある著者が、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議が2020年2月に発足し2021年7月に廃止されるまでの間、所属する専門家がどのような日々を送ったのかをまとめた本です。時の政権や行政機関から学生ボランティアに至るまで様々な立場の人に取材して、専門家会議の提言や記者会見の背景にあった議論、出来事、経緯などを詳細に記述しています。</p>			

『新型コロナからいのちを守れ！ 理論疫学者・西浦博の挑戦』			
西浦博／著 川端裕人／聞き手	中央公論新社	2020	書誌番号：1113836707
<p>厚生労働省の新型コロナウイルスクラスター対策班の一員で、「8割おじさん」の愛称で広く知られた専門家である著者が新型コロナ対策にどのように取り組んだか、小説家・ノンフィクション作家として定評のある川端裕人氏が聞き手となりまとめた本です。流行直前の2019年大晦日からの約半年間、誰とどのようなやり取りをし、どう考えどう行動したかを詳細に記述しています。</p>			


『データサイエンスはコロナとどう向き合ったか 不測の事態と予測の科学』			
新型コロナ対策とEBPM取材班／著	プレジデント社	2025	書誌番号：1125017192
<p>内閣官房が、ほぼ未知のウイルスによる感染症に「エビデンスに基づく政策立案（EBPM）」で対応するため立ち上げた「COVID-19 AI シミュレーションプロジェクト」について、公式記録には書かれていない関係者の実状をまとめた本です。プレジデント社が三菱総合研究所（プロジェクトの受託事業者）と共に取材班をつくり、関係者間の衝突や失敗も含め、当時の様子を詳細に記述しています。なお、巻末には同プロジェクトの研究者紹介や年表が掲載されています。（p.216-230）</p>			

『行動経済学で「未知のワクチン」に向き合う』			
佐々木周作／著 大竹文雄／著 齋藤智也／著	日本評論社	2025	書誌番号：1124056008
<p>やや専門的な内容ですが、人々が「自発的にワクチン接種を受けよう」と思える施策が必要だと考えた行動経済学の研究者たちが、どのようなアプローチで課題に取り組んだかが詳細に記述されています。</p>			

4 その他の事情、報道などについて

『コロナ禍における医療・介護従事者への心のケア 支援の現場から』			
前田正治／編著	誠信書房	2021	書誌番号：1113935753
精神科医である著者が、メンタルヘルスにおいて高リスクである医療従事者への支援方法などを、他の専門家と共にまとめた本です。専門的な内容が多い本ですが、当時の医療や介護の現場が直面していたメンタルヘルス上の問題について知ることができます。			

『医療者たちの燃え尽き症候群』			
ジェシー・ゴールド／著	青土社	2025	書誌番号：1125037254
アメリカで精神科医として働く著者が、2020年3月から11月までのパンデミック下に彼女の治療を受けた医療従事者の実態と、著者自身もまた治療が必要な状態になったことについて書いたエッセイです。海外の医療現場もメンタルヘルス上の問題に直面していたことが分かります。			

『コロナの記録と記憶 メディアは何を報じ、何を報じなかったのか シンポジウム』			
新聞通信調査会／編	新聞通信調査会	2024	書誌番号：1124005942
公益財団法人新聞通信調査会が2023年10月に主催したシンポジウムの内容をまとめた本です。基調講演とパネルディスカッションの二部構成で、登壇者の発言の書き起こしのほか、当日壇上に投影されたと思われる資料の画像が掲載されています。 			
なお、同シンポジウムの動画は現在もYouTubeで視聴することができます。			

『報道記録 新型コロナウイルス感染症』			
読売新聞東京本社調査研究本部／編	読売新聞東京本社	2021	書誌番号：1113883118
2020年元日から2021年春までに読売新聞に掲載された新型コロナ関連の記事（写真・図表含む）をまとめた本です。各記事には記者が書き下ろした解説や論考が付されているほか、巻末には主な事項・人名の索引や、緊急事態宣言の首相記者会見の要旨（基本的対処方針の内容含む）が掲載されています。			

『東京、コロナ禍。』			
初沢亜利／写真	柏書房	2020	書誌番号：1113799613
写真家である著者が、2020年2月から7月までの間、新型コロナが流行した東京を歩いて回り、様々な場所で撮影した142点の写真を時系列順にまとめた本です。著者はこの後、2022年に日本の三大写真賞である林忠彦賞（第30回）を受賞しました。			

『新型コロナ 見えない恐怖が世界を変えた 写真リポート』			
-	クレヴィス	2020	書誌番号：1113809942
2020年1月から7月頃までに、新型コロナの流行により変化した世界各国の様子を撮影したカラー写真210点を、一行程度の簡潔な解説と共にまとめた本です。			

〈その他の関連ウェブサイト〉 ※URL等の情報は、令和8年3月23日現在のものです。

◆映画『フロントライン』モデルとなった医師やクルーが語る真実の物語

「医療従事者の思いも詰まっている」〈MOVIE WALKER PRESS〉

映画の登場人物のモデルとなった5人の人物(阿南英明氏(結城英晴のモデル)、

近藤久禎氏(仙道行義のモデル)、高橋善明氏(真田春人のモデル)、

堀岡伸彦氏(立松信貴のモデル)、和田祥子氏(羽鳥寛子のモデル))に、

映画化についてインタビューした記事が掲載されています。

<https://press.moviewalker.jp/news/article/1270365/>



◆小栗旬インタビュー 映画『フロントライン』

あの時、僕らは知らなかった真実を伝えるために 〈otocoto〉

映画の主演俳優である小栗旬氏に、出演に至った経緯、撮影現場や

共演者とのエピソード、作品のテーマや背景などについてインタビュー

した記事が掲載されています。

<https://otocoto.jp/interview/frontline0606/>



[令和8年3月23日作成]

横浜市保土ヶ谷図書館

電話：045-333-1336

住所：保土ヶ谷区星川1-2-1



公式ホームページ